

みんなのへや

# アガリスクエンターテイメント

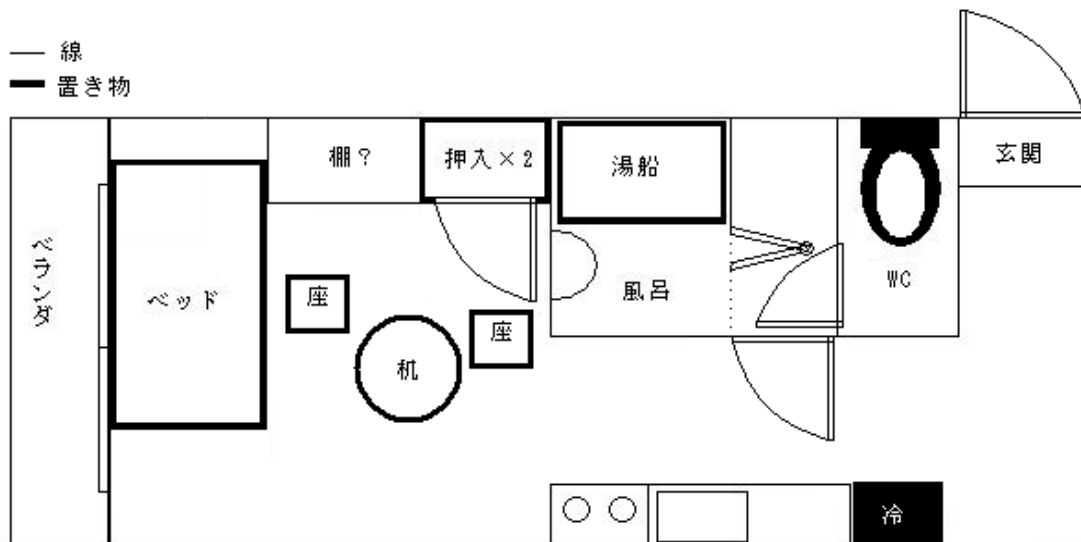
みんなのへや

作 富坂友

## みんなのへや

### 【登場人物】

- スト 岡田真由美。拓也のことが熱烈に好きなストーカー。メインの活動は撮影と妄想。ついにベランダまで接近。拓也の交友関係を把握。
- 彼氏 篠崎拓也。優子の彼氏。この部屋の契約者。優子と付き合っているがバイセクシャルで実は沼田とも恋人。沼田から、優子との別れを迫られている。
- 彼女 鹿島優子。拓也の彼女。実家暮らしだが彼氏拓也の部屋に半同棲状態。バイト先で自分に好意を持つ賢一を引っかける。
- 沼田 沼田翔。拓也の浮気相手。拓也の友人として振る舞うが、実はゲイで拓也とは恋人。拓也が彼女と別れるのを待っている。
- 賢一 立川賢一。優子の浮気相手。優子のバイト先の同僚で浮気相手。優子に惚れていたところを向こうから誘われ、彼氏がいるのを知りつつズルズルと。
- 泥棒 長谷川守。空き巣専門の泥棒。単身者の出かけた瞬間を狙っている。
- 大家 美濃部よう子。このマンションの大家。



ワンルームマンションの一室。一階。片付いているが殺風景な男の一人暮らし。下手にベランダ。上手に玄関。玄関を入れて通路の右側(奥側)にトイレ、左側(手前側)がキッチン。部屋の上手奥に押入れ(上下二段に分かれている)部屋の中央に机。下手の窓際にベッド。よく泊まりに来る彼女の私物も何点かか持ち込まれている。

- 彼氏が携帯で電話をしている。
- 拓也 わかった。今迎え行く…うん、いつもの。ファミマのところで。うん、じゃあ、はい。え、ああ、うん…言わせんなよ。うん、じゃあ、すぐ行く。
- 電話を切り、部屋(ゴミ箱、洗面台)を確認して彼女の私物を押入れ(上段)に隠す。
- 彼氏が電話をかける。
- 拓也 もしもし、優子？おう、お疲れ…うん、あのさ、今日なんだけど。うん、今日。仕事の後なんかある？…え、いや、何時ぐらいに帰ってくる？…あ、遅いんだ？あ、なるほど…はいはいはい。え？いや？なんでも。いや、別になんかあるわけじゃないけど。うん。…あ、俺？今？…はバイト先。うん、休憩室。そう。おれも…遅くなるかなあ。ちなみに優子は何時ぐらい？いや、だから、遅いって何時かなあって。9時？…は過ぎる？10時？…10時は過ぎないぐらいか。オッケーオッケー。9時半から10時ぐらいね。うん。9時半までには確実に帰らない、帰ってこれないってことね、わかった。え、だから何でもなくて。…あ、ホラあれだよ、あの、遅いとさ、あれじゃん、心配じゃん。そういう…アレだよ、うん。あ、俺？うん、だからバイト中だって。今休憩室。いや、別におれも9時半までになんかあるとかじゃないからさ、おれもバイト遅くなるし。うん。なんで？あ、いや、別になんでも良いんだけど。じゃあ…とりあえずそっちも仕事なのね、うん。頑張るって。うん、じゃあ。あとで。はい。
- 拓也が出て行こうとして、彼女との写真立てを見つけ、彼女の私物と一緒に押入れに放り込む。
- 拓也が玄関からはける。
- 無人の部屋。
- ストがベランダから覗いている。写真も撮っている。
- 大家(声) あなたー？そこの(色)のあなたー？
- スト !
- 大家 何してるの？
- スト え…
- 大家 そこ…篠崎君のお部屋よね？
- スト …彼女です！拓也君の！あの…鍵忘れちゃって
- 大家 あら(笑) そうだったの？ごめんなさいね、何かと思ったわよ。最近ちょっと物騒なことが色々あってね、気になっちゃうもんだから。こないだだってね…
- スト あ、はい、すいません、はい。
- 部屋に入ってしまうスト。
- スト はは…
- 部屋を物色。部屋をいれて自分撮りしたり、ベッドに飛び込んだり、色々嗅いだり。押入れ漁ったり、隠れてみる。名前呼んだり会話するフリして堪能。
- 泥棒が様子を伺い現れ、ピッキングして玄関から来る。
- 音に驚き、慌てて、そのまま押入れ(下段)に隠れるスト
- 泥棒はそのまま入ってきて、金目のものが無いか物色。鼻歌交じり、呟きながら。
- 泥棒 おっ。
- 金が入った封筒を見つけ、懐にしまう。
- スト …？(誰？と)
- 泥棒が荷物を漁り、彼氏のしまった彼女グッズを見つける
- 泥棒 ん？ちっ、彼女かよ。何でしまってたんだよ…
- 泥棒はそのまま色々漁り、押入れを開ける。ストと遭遇。
- 泥棒スト うわあ！

みんなのへや

泥棒 いや、あの…  
スト あ、うわ、あ…  
泥棒スト 違うんです！  
泥棒 え…  
スト え…  
泥棒 あ、いや…  
スト えーと…誰ですか？  
泥棒 いやいやいや…  
スト 「いやいや」じゃなくて、誰！  
泥棒 …怪しいものじゃないんです！  
スト さっきからこそそ…あきらかに怪しいでしょ！  
泥棒 そんなの…こんなところに入ってる人に言われても！  
スト それはいいの！そんなことよりあんたは誰なの？なんなの？  
泥棒 この家のヤツの…友達だよ。  
スト …ホントに？  
泥棒 ああ。  
スト ケンジの？  
泥棒 そうだよ。  
スト 本当にケンジの友達？  
泥棒 だからそうだって。  
スト はい、嘘。ここの家主の名前「ケンジ」じゃないから！  
泥棒 え！？あ  
スト 「拓也」だから。  
泥棒 いや、その…  
スト なんで知らない人が入って来てんの…？  
泥棒 いや、違うんだこれは  
スト え、泥棒…？  
泥棒 いや、違う違う、あの…違うんだ、その…ケンジのあだ名が拓也あ、じゃなくて拓也のあだ名がケンジっていうか…あの、ほら下の名前なんて覚えてねーから！  
スト そんなわけないでしょ。  
泥棒 そういうアンタこそなんなんだよ！  
スト …彼女！  
泥棒 彼女がなんでそんなとこ…え、彼女？  
スト そうだよ。  
泥棒 （さっきの写真と見比べて）彼女違うけど…  
スト …元カノ！  
泥棒 元カノだからって…部屋に隠れてんのかよ！  
スト いや、その…  
泥棒 ストーカーじゃねえかよ！  
スト ストーカーじゃないし！…っていうか、そっちが元カノだから！  
泥棒 じゃあなんでここにいるんだよ！  
スト あたし？今…同棲してるから。  
泥棒 そうじゃなくて、なんで押入なんだよ！  
スト …ここがあたしの部屋だから。  
泥棒 そんなドラえもんみたいなわけないだろ！  
スト ！！…泥棒に言われる筋合いは無いから  
泥棒 だから、泥棒とか、そんなんじゃなくて…その…  
スト じゃあなによ！  
泥棒 ただ、ちょっと、まあ、入ってみたっていうか…  
スト それを泥棒っていうんじゃん！あ、なんか盗ったでしょ！拓也君のもの！  
泥棒 盗ってないよ。  
スト 嘘だ

泥棒 いや盗ってねえよ！  
スト 嘘だ！  
泥棒 そんなに盗ってねえよ  
スト やっぱ盗ってんじゃない！泥棒じゃん！警察呼ぶ…ことはしないけど！…その…  
ダメ！  
泥棒 あ、呼ばないんだ  
スト なに？呼んで欲しいの！？  
泥棒 いやいやいや…！  
スト でしょ！？…あたしも、呼びたくはないから…  
泥棒 …やっぱアンタもなんかあんだろ？  
スト はあ！？  
泥棒 いや、おれは確かにアレだけど、アンタもなんか後ろ暗い感じだろ？  
スト 何言ってんの！？  
泥棒 だってなんかおかしいもんさっきから  
スト おかしくないし！それより、盗ったもん出しなさい！  
泥棒 いや、やめろって！  
スト 拓也君のものなんだから！  
泥棒 ちょっと、何するんだよ！  
スト あたしの拓也君の物なんだから！  
泥棒 え？あ、ちょっと！引っ張るなって！  
■ 優子女が賢一を連れてくる。  
賢一 ねえ、ホントにいいの？  
優子 大丈夫だって。  
賢一 うん、まあそうだと思うんだけどさあ  
優子 ちゃんと確認したから。今あの人バイト先だって。  
————— 鍵かかっているか確かめる。  
優子 ほら鍵。出かけてるじゃん。  
賢一 うん…  
————— 彼女が鍵をあける。泥棒が驚く。  
泥棒 ！  
スト ？  
泥棒 やっぱ！  
優子 どうぞー  
————— 彼女と賢一が入ってくる。泥棒が逃げようとする。  
スト (泥棒捕まえて) ちょっと！逃げるの！？あんた！  
泥棒 いや！マジで！やめっ！ちょ、人来たんだって！  
賢一 お邪魔…しまーす  
優子 はい  
泥棒 あーもう…！入れて入れて！  
スト なになに！？ちょっとやめて！  
————— 押入下段に無理矢理入ろうとする泥棒、怖がって拒否するスト。  
泥棒 シーッ！静かに！  
スト (もごもご)  
————— 押入下段に無理して入る泥棒。  
泥棒 大丈夫！何もしないから！おれも隠れるだけだから！な？  
スト (頷く)  
————— 賢一が玄関で立ち止まり  
泥棒 ふう…。  
優子 どうしたの？そんなとこで突っ立って。  
賢一 あ、うん。  
スト この声。あの女…  
泥棒 誰？  
スト 拓也君の彼女。

泥棒 ほお。  
賢一 あのさあ  
優子 ん？  
泥棒 え、彼女あんたなんじゃ…？  
スト シーッ！  
泥棒 あ。  
賢一 やっぱりまずくない…？  
優子 ええ？だからさあ  
賢一 いや、うん。ほら、一応…その…彼氏さん？の部屋な訳じゃない？  
優子 私の部屋でもあるから  
賢一 うん、そうなんだけど、  
泥棒 え、で、やっぱ（あんたも）隠れてるよね？  
スト 誰？この男…  
泥棒 え？  
優子 え、いやなの？  
賢一 いやな訳無いじゃん、そんな…なんていうか…  
スト 拓也君の声じゃない…え、え、なんでここに彼女と他の男が二人でいるわけ？  
泥棒 知らないよ、友達かなんかだろ。  
スト こんな声の友達いないから！  
泥棒 あ、ああ。  
賢一 …まあいいんだけど  
優子 じゃあいいじゃん。  
賢一 ごめんごめん、  
スト 女のほうは拓也君の彼女だから…あの女といつもつるんでる奴かもしれない！  
絶対そうだバイト先の男だ。  
泥棒 …詳しいな、ストーカーかあんたは。  
スト だからストーカーじゃないし！ただ好きなだけだから！  
泥棒 ちょ！声！シーッ！  
賢一 ！？  
————— ストの口をふさぐ泥棒。あたりを気にする賢一  
優子 なに？  
賢一 なんか声が…  
優子 声って？  
賢一 ストーカーとかなんとか  
優子 ああ、お隣さんじゃない？  
賢一 いや、あきらかに近くから…  
泥棒 わかった、わかったから、な？  
スト 私は、ただ純粹に、拓也君のことが好きなだけなの！  
泥棒 うん  
スト 拓也君は、まだ私のことあんまり知らないだけなの！  
泥棒 うん  
スト これから知っていくところなの！  
泥棒 うん  
スト 今知り合いかどうかなんて、大した問題じゃないの！  
泥棒 うん…あんた、ホンモノだな  
スト そうだよ。本物の愛だよ  
————— 靴を手に持ったまま部屋に入ってくる賢一。  
優子 え、靴？  
賢一 ああ、一応ね。これがあるとまずいかな、って  
優子 大丈夫だって、そんなすぐ帰ってこないから。  
賢一 うん、まあそうだと思うんだけど、念のため。  
優子 心配性だなあ  
スト あいつら…何してんのよ、拓也君の留守中に…

みんなのへや

泥棒 …まあ、俺らもだけどね。  
スト 絶対怪しい…  
泥棒 うん、だから（俺らもだけどね）…  
スト え、浮気…とかじゃないでしょうねまさか…  
泥棒 なんでも良いから落ち着いてくれよ…？  
スト 拓也君がいるのにそんなこと…  
泥棒 ほら、そうと決まったわけじゃないし…俺らも見つかるのアレだから…  
スト もしそうだったら…  
——— 賢一、辺りを警戒している。  
泥棒 あの、ここ、俺もいるからね？  
賢一 ちなみに…  
泥棒 そこんどこ忘れないでね…？  
スト シーッ！  
賢一 彼氏さん…タクヤ…さんだっけ？どんな人？  
優子 え？どんなって…？普通の人だよ  
賢一 ふうん…普通っていうと…  
優子 え、まあいいじゃん。その話はさあ  
賢一 うん、ま、いいんだけどさ、ちなみに…神経質っていうか用心深いところっ  
て…あったりする？  
優子 ええ？  
賢一 いや、ま、一応ね。  
優子 ないよ、そんなの。むしろ雑っていうか…適当な性格だから。  
賢一 あ、そう…雑っていても、その、乱暴な感じとか…は無いよね？  
——— 賢一の肩を掴み座らせて  
優子 だから、心配しすぎ。あいつ出かけてるってば。ちゃんと確認とったし、絶  
対帰ってこないから。  
賢一 ホントに？  
優子 うん…夜まで帰らないって。  
賢一 夜…まで…  
スト ！  
——— 動揺するスト、抑える泥棒。  
優子 …。  
賢一 …。  
優子 だから、ちょっとは落ち着いて。ね？  
賢一 うん  
優子 もっと適当にしていいから。  
賢一 うん。  
優子 自分ちだと思って。  
賢一 絶対無理。  
——— 優子はキッチンに。  
泥棒 もうなんでもいから、静かにしててくれよ…！あんた一人じゃないんだから  
…！お願いだから…！  
スト …許せない。  
泥棒 え  
スト …拓也君にバラす  
泥棒 いやいやいや、だから  
スト アイツ等にも一言いつてくる  
泥棒 ダメダメダメ…！マジで！  
スト でも…  
泥棒 そんなことしたら…アンタのこれもバレるぞ？そしたらアンタも…拓也君？に  
嫌われるから。  
スト ！  
泥棒 彼女と共倒れだから！な？

スト　　でも  
泥棒　　誰も得しないから！お願いだから！  
————賢一がトイレに立つ。  
賢一　　ごめん、ちょっとトイレ借りて良い？  
優子　　いいよ、ここのドア。  
賢一　　うん  
————優子が案内。顔を覗かせる泥棒。  
泥棒　　行ったか…？  
スト　　…  
————トイレの中で気持ちを落ち着かせる賢一。  
賢一　　うん、大丈夫、俺。  
泥棒　　（様子を伺い）とりあえずおれは出てくから！  
スト　　…  
賢一　　全然大丈夫、彼氏とか…知らない。うん、いける、いける…  
————泥棒が押入れから出てベランダへ逃げようとする。その瞬間携帯の着信音が鳴る。驚く泥棒、部屋に来る彼女。  
————間一髪で押入れに戻る泥棒。音の場所を探す彼女。鳴り続ける携帯。  
泥棒　　なんなんだよ…！  
スト　　やばい、あたしの携帯…  
泥棒　　おま、なに置きっぱにしてんだよ！信じらんねえよ！っていうか切っとけよ侵入者なんだから！  
スト　　いや、マナーモードにはしてたよ！たぶんアラームだよ。  
泥棒　　そういう問題じゃないよ！  
スト　　いつも拓也君が出かける時間の。  
泥棒　　知らないよ！どうすんだよあんなもん！  
————鳴り続ける携帯。場所がわからない彼女。  
優子　　（トイレに向かって）鳴ってるよー。  
賢一　　大丈夫だよな…夜まで帰らないんだもんな…よし！  
泥棒　　明らかに証拠品じゃないかよ。あんなもん置いとくなよ…  
スト　　そんなこと…私だってわざと置いといたんじゃないもん  
優子　　（ノックして）賢一君ー。ずっと鳴ってるよー携帯。  
賢一　　え？  
優子　　どっかで。かばんの中？  
賢一　　携帯？  
————携帯はポケットに持っていた賢一。  
優子　　いいのね？  
賢一　　え、うん、わかんないけど…  
スト　　じゃあわかったよ！取りに行く！  
泥棒　　ダメダメダメ！  
スト　　だって大事な携帯だし、何枚写メが入ってると思ってんの！？  
泥棒　　関係ないから！  
スト　　それにだって待ち受けだって拓也君だし、あれ見つかったらどうせバレるんだから！  
泥棒　　いやでも、今こっから出て行くと必然的にオレまで…  
スト　　しょうがないよ！こうなったらアイツ等に一言言ってやろう！ね！？  
泥棒　　「ね？」じゃねーよ！それだけは…！おれまでバレるから！  
————押入れから出て行こうとするストを止める泥棒。携帯鳴り止む。  
■　　彼氏が沼田と談笑しながら来る。  
拓也　　10時だっけな？ま、とりあえず9時半までは帰ってこないって。  
沼田　　あ、そうなんだ。  
拓也　　一応確認してっから、そのぐらい。  
————飲み物を持って部屋に向かう彼女。  
————鍵が開く音。

泥ス優 !!

彼氏 OK、じゃあ入れよ。  
沼田 お邪魔しまーす  
彼氏 あーい

———慌ててストを押入に戻す泥棒。彼女は右往左往し、洗面所(トイレの前)へ直行

優子 賢一君! やばい、帰ってきた!  
賢一 え! ?  
スト 拓也君帰ってた!  
泥棒 最悪だ!  
賢一 …ホントに! ?え、だから言ったじゃんマズイって  
優子 だって…何でもいいから! 絶対にここから出ないで! 声も出さないで!  
賢一 え、うん。…あ、荷物!  
優子 え?  
賢一 俺の荷物とかそういうの  
優子 携帯とか荷物はあたしが何とかするから! 隠れてて!  
賢一 携帯…?

———優子がキッチンに戻る。拓也に見つかる。

拓也 え! ?…あれ  
優子 …あら  
拓也 おかえり…  
優子 …おかえり。  
沼田 あ、優子ちゃん。お邪魔します  
優子 あ、いらっしやい…  
拓也 …帰ってたんだ?  
優子 うん、今帰ってたところ。ちょっと…用事早く終わって。  
拓也 そう。  
優子 そっちこそ。  
拓也 なんか…バイト早く終わって。  
優子 ホント早いね…  
拓也 そっちこそ…  
泥棒 もう一人の誰?  
スト 拓也君の親友、沼田ってやつ。  
拓也 あ、じゃあ適当にあっち座ってて。  
沼田 うん  
優子 いや! ちょっと待って!  
拓也 なに?  
優子 こっち…散らかってるから!  
拓也 え? そう?

———優子が賢一の荷物や靴をベッドの下に放り込む。用意してしまった飲み物は拓也と沼田に渡す。

優子 あ、外暑かったでしょ、はい。  
拓也 え、早…

———ストの携帯のアラームが鳴る。

優子 !!  
スト そうだ携帯!  
泥棒 ちょっと!

———スト出ようとする。泥棒が止める。優子が携帯を見つけられない。

拓也 鳴ってるぞー  
優子 わかってる! どっからだろうな～  
———携帯を回収しようとする優子。拓也も手伝いに来る。

拓也 ベッドのほうじゃないの?  
優子 いいから! こないで! 自分で探すから! あたしの携帯だから! …あたしの!  
拓也 …はあ。

みんなのへや

沼田 あ、ちょっとトイレ借りて良い？  
拓也 いいよ。  
優子 いや！ダメ！  
沼田 え？  
拓也 はあ？  
優子 ごめん、トイレはダメ！  
沼田 あ…ごめん  
拓也 いや、いいよ使っても。え、なんでダメなの？  
優子 いや、あの、ダメっていうか…開かないから！…鍵が。さっきから。  
沼田 あ、そうなんだ  
優子 そうそう。ゴメンね、嫌がったとかじゃなくて、なんでか知らないけど、誰もいないのに鍵が開かないっていうね～？なんでだろうね～？  
拓也 またなったんだ、あれ。  
優子 え、「また」？  
拓也 いや、前にもたまにあったんだよ優子来る前から。  
優子 え、あ、そうなの！？  
拓也 でも開けるコツあるから。  
優子 え、あ…いや…！  
拓也 ちょっと待ってて、今あけるから  
沼田 うん  
優子 ダメダメダメ！  
拓也 は？  
優子 …あたしも使うから！あの…その…限界！沼田君ホントごめん！漏れそうだから！ね？空いた瞬間、あたしに入らせて！ホントお願いだから！  
沼田 ああ、まあ、いいけど…。  
優子 ありがとう！じゃあ拓也、開け方教えて！このドアでやると…？  
拓也 えっと…ここを、こう  
優子 オッケーわかった！ありがとう！  
———彼女、洗面所の中へ。沼田と拓也は部屋の真ん中へ。  
優子 賢一君！開けて開けて！  
賢一 …  
拓也 あいつどうしたんだろうな…  
沼田 さあ？  
優子 いいから！あたし一人だから！  
———賢一がドア開ける。  
拓也 なんか、ごめんな。  
優子 トイレ使うって！アイツの友達が。だから出て！  
沼田 別に良いけど。どうせ俺は歓迎されてないんだろうしー。  
賢一 いや、出るって…出たら彼氏さんがいるんじゃないの？  
拓也 そうかなあ  
優子 そうじゃなくて、ここから出て、そのままこっちのお風呂場に行って！  
沼田 拓也もおれよりあの女のほうがいいんでしょ？  
スト泥 え？  
拓也 はあ？  
賢一 ええ？…わかったけど…  
沼田 だってやっぱりオレ男だし…拓也はどうせ女のほうがいいんでしょ？  
拓也 何言ってんだよ。  
———トイレから風呂に移動  
沼田 え、じゃあおれのこと愛してるの？  
スト泥 ！？  
拓也 お前…今はそういうこと言うなよ。  
スト泥 ！！  
賢一 あ、この窓は！？

優子 鉄格子あるし…  
拓也 人前じゃ言わない約束だろ？  
沼田 だって誰もいないじゃん  
拓也 あいつがすぐそこにいるじゃん  
沼田 聞こえないよこんなの。ま、おれは聞こえてもいいんだけど  
拓也 おい、ちょっと待てよ～  
沼田 ほらやっぱり拓也はあの女取るんじゃない  
拓也 そうじゃないよ  
沼田 そうだよ、言わないってのは  
拓也 そうじゃないって！いきなり言うのがアレってだけで…気持ちは…そうじゃないから  
——— 叫びそうになるストの口を押さえる泥棒。風呂場の窓の格子を取り外そうとする賢一。  
沼田 じゃあ俺のこと、どう思ってるの？  
優子 どう！？  
賢一 ええ…  
拓也 え？だから…  
拓也 まあ…愛…してるよ。  
スト 嘘だ！  
泥棒 !!  
拓也 嘘じゃないよ！  
沼田 え？  
拓也 え？  
賢一 ダメだこりゃ  
——— 暴れそうになるストを止める泥棒。  
拓也 …とにかく、それはホントだから。  
沼田 ならいいけど～。  
拓也 お前、楽しんでんだろ！このタイミングで言わせるとか…  
沼田 早く別れない拓也がいけないんじゃないん  
拓也 ったくもう…あつつい。  
優子 やっぱ隠れるしかないか…  
——— 拓也にじゃれつく沼田。  
拓也 ちょ、お前、やめろよ～  
沼田 やめな～い  
スト …？（耳をそばだてて）  
——— 拓也に絡みつくと沼田。  
拓也 バカ、見つかるって  
沼田 だから、見られてもいいじゃん。  
スト !!  
拓也 いや、あいつには順を追って話すから…ちょっと！  
——— ベッドでごろごろ。  
スト やめてー！  
泥棒 !!  
沼田 やめな～い  
優子 じゃあ、この湯船の中、絶対出ないで！声も出さないで！  
拓也 （声を出す）  
沼田 声出てるぞ～？  
スト （苦悩）  
優子 響くかもしれないから！  
拓也 （もっと声を出す）  
スト （悶絶）  
賢一 いつまで…？  
優子 あたしがあの二人追い出すから！そしたらサッと逃げて！

———彼女が戻ってくる。

拓也　　ちょっと、そこやめろよ～

優子　　え…？

拓也　　！？

拓也　　あ…ギブギブ！痛いいたいいたい！…1. 2. 3！

———プロレスのフリする拓也と、渋々の沼田。

拓也　　…あ、プロレス！プロレスごっこ。

優子　　…そう。

拓也　　沼田は強いなあ、やっぱり。ふう、あついあつい。汗かいちゃったよ全く。

優子　　はあ…あ、トイレどうぞ。

沼田　　あ、ありがとう。でもなんかやっぱいいわ。

優子　　え、そうなの？

拓也　　ふう、あついあつい…

沼田　　いや、特別すごーく行きたい訳じゃなかったし

優子　　そうなんだ…。

拓也　　ちょっと俺シャワー浴びてくるわ。

優子　　はあ！？何言ってんの！？

拓也　　え、だからシャワー…

優子　　…っダメに決まってるでしょ！

拓也　　え、なんで？

優子　　なんでも何も…そっちこそなんでシャワーなんて浴びるの！

拓也　　いや、だから汗かいたんだってば

優子　　だから…ダメ！

拓也　　なんでだよ！

優子　　…あ…そうだよ！シャワー浴びてどうするつもりよ！？（芝居がかって）

拓也　　え？

優子　　「シャワー浴びてくる」だなんて、いやらしい響き…！浴びたあと何するつもりよ…！

拓也沼田　　！？

優子　　…っていう

拓也沼田　　…。

優子　　…え？

拓也　　…お前そんな何って何もするわけ無いだろお前マジでお前ホントさあ…いや、マジふざけんなだしそういうのマジ…（ぶつぶつ）

優子　　？

拓也　　そうだよお前、そんなお前、「いやらしい」とか何言ってんだよおれと沼田男同士だしなんかそういういやらしいこととか有り得る訳ないしっていうか有り得ないしマジで、何バカなこと言ってるんだって話だし…

優子　　え、あ、ごめん…え、何？

拓也　　いや！マジ有り得ないから！俺と沼田が？（笑）「いやらしいこと」とかバカじゃないの？お前はホントに…くだらないことばかり言って…（笑）なあ沼田？そんなこと…気持ち悪いこと言うなって話だよなあ沼田？

沼田　　…。

拓也　　沼…田？

沼田　　…そうだよねーそんなことありえないよねー

拓也　　…だろ？なあ優子お前何言ってんだよ。ホントに。

優子　　あ…うん、あはは…

拓也　　…。

沼田　　…。

拓也　　…。

拓也　　…。

———逃げるように風呂場へ向かおうとする拓也。止める優子。

優子　　ちょちょちょ…！いや、ホントに待って！

拓也　　なんで！？

優子 汚いから！  
拓也 いいよ別に！  
優子 よくないって！  
拓也 昔も汚かったことあるし  
優子 そういうレベルじゃないの！  
拓也 でも昨日は全然…  
—————優子が拓也の両肩を掴み、  
優子 健康を害するレベルなんだってば！  
拓也 今日の間に何があったんだよそれ！  
—————優子、拓也に抱きついて  
優子 お願い！  
拓也 え？  
—————風呂場へ入る優子。  
拓也 え、どういう…  
優子 賢一君！  
—————フタ開ける  
賢一 うわ、今度は何？  
優子 やっぱりトイレ移動！  
賢一 え？  
—————湯船から出る賢一。  
拓也 なんなんだろうな、あいつ…もしかして気づいてんのかな？  
沼田 さあねー  
拓也 ん？  
優子 拓也がシャワー使うとか言ってるから！急いで！  
賢一 ああ、うん  
スト 拓也くんが穢された…  
泥棒 知らないけど…  
拓也 …あ、さっきのアレ？あんなのは嘘だよ？イヤ、なんか、まるであいつが気づいてるみたいだったから…  
沼田 …じゃあいつそのこと言っちゃえば良いじゃん  
拓也 だから順序ってものが…  
沼田 っていうかさ、なんで今日ここにいるの？出かけてるんじゃないの？  
拓也 それはおれもわかんないんだって。出かけてるって言ってたのになあ…  
沼田 今日は二人きりって言ってたじゃん  
拓也 そうなんだけど！そのつもりだったんだけど…  
沼田 …あいつ帰らせて。  
拓也 え？  
優子 トイレでじっとしてて。  
拓也 だって…あいつもほぼ住んでるんだよ？ここ。  
賢一 いつまで？  
沼田 今日だけでいいから  
拓也 それは…無理かなあ  
沼田 だったら俺達のこと打ち明けて。  
優子 沼田君帰るまで  
拓也 無理。  
賢一 無理だって！絶対バレるってば  
沼田 …じゃあ別れる。  
スト …！  
拓也 おい、ちょっと待てよー。なんでそういう話になるわけ？  
スト 別れちゃえ。  
沼田 だって要するにおれは二の次ってことじゃん？全部において。  
拓也 違うって！…わかった！  
優子 じゃあわかった！

拓也 今日 優子に出 行ってらう！  
優子 拓也がシャワー浴びてる間、もう一人をひきつけるから！  
拓也 それで夜まで二人っきりにする！  
優子 その隙にダッシュで逃げて！  
沼田賢一 わかった。  
スト なんで別れないのよ…  
泥棒 っていうか全員出て行ってくれ…

---

風呂場から戻る優子。  
優子 終わったよ！拓也どうぞ！あと沼田くんちょっと  
拓也 いや、シャワーはもういいんだ。  
優子 え？  
拓也 急なんだけど、ちょっと沼田と大事な話があって…悪いけど外してくれない？  
優子 え、あたしが…？  
拓也 うん。  
優子 え、外すっていうと…あたしが出て行くってことだよ？  
拓也 うん。  
優子 …二人が残って？  
拓也 だからそうだって。  
沼田 ごめんね  
優子 え、なんで？  
拓也 だから、大事な話があって  
優子 えーと…逆じゃダメ？  
拓也 逆って？  
優子 いや、あたしが残って、二人が出て行くっていう…  
拓也 そうはいかないんだ  
優子 なんで？  
拓也 なんでっていうか…  
沼田 俺の家実家だしさ、ホテルって断られることあるし  
拓也 え、いや、ちょ、は！？  
優子 ？  
沼田 何の話だよ！（ツッコミとして処理）そうじゃなくて、その、この部屋で話す必要があるんだ。  
優子 …それは…今すぐじゃなきゃダメ？  
拓也 うん。  
優子 例えば…例えばだけどね？拓也がシャワーに入ってる間にあたしが向こうで沼田君に見せたいものがあったりしたら、それが終わってからってのじゃダメなの？  
拓也 え、何、その具体的ななのによくわかんない話  
優子 例えばの話よ！  
沼田 え、優子ちゃんはここになんでここに残りたいの？  
優子 …ちょっと具合悪くて。  
拓也 え、ホントに？  
優子 うん  
拓也 さっきあんなに動き回ってたのに？  
優子 あれで悪化した！（咳き込んで）ホラ、うつしちゃ悪いから、今日は帰ったほうが良いよ、（咳）  
拓也 え…本当に？  
優子 ホント！  
拓也 （沼田の意見訊く）  
沼田 （優子の額に手を当て）あ、ホントだ！これはすごい熱だ！  
優子 え？  
沼田 たしかにこれはひどい風邪かも知れないね  
優子 …でしょ！だからちょっと

沼田 病院に行ったほうがいい  
優子 え？いや、それは  
拓也 そうだな、病院に行ってきたほうがいいなあ。  
優子 え、いやいや…あ、じゃあだったら二人付き添いお願い！  
拓也 え  
泥棒 …！  
沼田 付き添いはいらんじゃない？  
優子 いや、もう立てないから…ほら、歩けないから皆で行こう！  
泥棒 うんうんそうしてくれ…！  
沼田 いや、絶対大丈夫だよ。病は気からだって  
優子 でも気持ちが弱ってて立てないから二人とも一緒に来て！  
泥棒 (同意)  
沼田 大丈夫だって  
優子 いや、無理そう  
沼田 なんとかなるよ  
優子 これは無理だなあ全く動けない  
沼田 ホントは大丈夫でしょ？  
優子 絶対無理！  
拓也 じゃあ俺が一人で連れてくから  
沼田 え  
優子 え  
沼田 拓也がいくことないって  
優子 拓也だけじゃ意味が…  
泥棒 そうなんだよ…！  
拓也 いいからいいから、はい行くよー  
————— 拓也が優子引きずっていく  
優子 いやいや、沼田君も…沼田君も…！  
泥棒 連れてってくれ…！  
————— 拓也が沼田の元まで戻って  
拓也 ごめんすぐ連れてって置いて来てすぐ戻るから！ね！  
沼田 拓也が行ったら意味ないじゃん！  
拓也 でもこうしないとキリないから！あいつ追い出したら二人つきりだから！すぐ戻ってくるから！ね！  
■ 優子と拓也が出て行く沼田が取り残される。  
沼田 おれだけ残ってどうすんだよ…。  
泥棒 こいつが残ったら意味ないだろ…  
————— 部屋の真ん中に(玄関向いて)残っている沼田。出られない沼田、賢一。呆然としているスト。  
泥棒 結局帰れないじゃんかよ…！どうすんだよ…  
スト …  
泥棒 アンタもそうやって凹んでる場合じゃないぞ。  
————— 部屋で浮かれてる沼田  
スト …わかった。  
泥棒 わかったら？今は出るしかないんだから  
スト …そっか、そうだよ、  
泥棒 とりあえず出る方法考えよう  
スト そうだよ、バラしちゃえばいいんだ  
泥棒 ん？  
スト ははは、簡単じゃん。あの女の浮気も、拓也君とあいつの浮気も、お互いにバラしちゃえばいいんだ！  
泥棒 え、  
スト だって拓也君とあの二人を別れさせればいい訳だから、まずはお互いの浮気をバラすんだって！そしたらとりあえず彼女と拓也君は別れるじゃない？

泥棒 え、何言ってんの！？  
スト だから！男と浮気したら彼女も幻滅するだろうし、沼田も、彼女が浮気したら拓也に別れろって言うじゃん

泥棒 そういう意味じゃなくて…  
スト そうなると、沼田と拓也君を引き離すのが問題だよ…まあもともと拓也君には似合わないし、なんとでも手は打てると思うんだけどね。

泥棒 おかしいおかしい…もうわかんない…  
スト ううん、おかしくないよ。そういう邪魔する人間が近くにいなくなればさ、私の気持ちも届くわけじゃない？

泥棒 いやいやいや…  
スト ただ、一つ問題があるの。邪魔なのが離れたところに私が出て行きたいじゃない？そうなると、私はみんなに見られないように互いの秘密をばらさなきゃいけないっていうね…なにか策はある？

泥棒 はあ！？知らない知らない！おれそんな話のってないから！  
スト 今さらなに言ってんの！  
泥棒 え、「今さら」！？  
スト 浮気しながらとか、男同士とか、おかしいじゃん！拓也君はそんなの似合わない！

泥棒 しらねえよ！おれ関係ないもん！  
スト しょうがないじゃん！協力してくれなきゃ泥棒だってばらさなきゃいけないんだから！

泥棒 ふっざけんなよ脅迫かよ！  
スト 私だってそんなことしたくないんだから！  
泥棒 俺の事言ったらあんたのこともバラすぞ！？  
スト よく考えたら泥棒の方がよっぽど悪いことだから取引になんないんだよこれ  
泥棒 は！？いや、おま  
スト だから一緒に拓也君とあの二人を引き離さなきゃなんないじゃん。  
泥棒 悪魔かよお前…！

————— 沼田の携帯が鳴る

沼田 もしもし拓也？…は！？え、消えたってどういう…  
沼田 マジで？ホントに見失ったの？  
スト ちょっと協力してくれるだけでいいから  
泥棒 そんなこと言われても

沼田 え、「探しに行くから帰れない」とかそういうこと…？  
沼田 そんなこと言って優子ちゃんと一緒にどっか行くんじゃないの？  
沼田 …信じられないね。

スト どうやったら隠れたまま知らせられると思う？  
泥棒 知らないよ

沼田 じゃあ俺のことどう思ってんの？  
スト やっぱ置き手紙とかかな？  
泥棒 …はあ？  
沼田 …。ふふ。

スト 「拓也さんは沼田さんと付き合っています」「彼女さんは他の男と」  
泥棒 誰からのだよ。怪しすぎるだろそんなの  
沼田 え、ここに？優子ちゃん？  
スト あそっか、部屋に入ったのは怪しいから、電話で言おっか  
泥棒 同じだよ！

————— 沼田がベランダに出ながら。  
沼田 こっちには戻って来てないと思うけど…

————— ベランダの窓閉めて

スト じゃあ二人の写真を撮ってポストに入れたりする？でも現像したりポスト入れたり時間は時間かかるし  
泥棒 手口がホンモノすぎるよ！

みんなのへや

スト じゃあ出てって直接言ってよ。さっきから文句ばかりじゃん。  
泥棒 いや、だって…じゃああれとかは？浮気相手の荷物。  
スト !  
泥棒 あれでも目立つとこに出しときゃバレるだろ。  
スト なるほど！あ、そこに置き手紙ね  
泥棒 だから置き手紙は怪しいから  
スト だって荷物だけじゃ気づかないかもしれないし…あ、わかった。第三者目線だから怪しいんだ。  
泥棒 ?  
スト 彼女が自分で書いたテイで「ケンイチ（浮気相手）の荷物」みたいなメモを貼っつけて  
泥棒 勝手にやってくれ…  
スト 紙とペンある？  
泥棒 ないよそんなもん  
スト じゃあとってきて  
泥棒 無理だよ！今あいつがいるだろ？  
スト こっそり物を盗るのが仕事でしょ？プロならプロらしいとこ見せてよ！  
泥棒 そういう問題じゃないよ！  
スト じゃあいいよ紙はレシートで。  
泥棒 ペンだけでも盗らないぞ。  
—————ストが血文字のために指を噛み切ろうと  
泥棒 ちょちょちょ…！怖い怖い！血はちょっと！  
スト だって他に書くものないんだもん  
泥棒 血を「書くもの」にカウントするなよ…じゃあわかったよ…  
—————泥棒が辺りを見渡して、ベランダで電話している沼田を発見、押入からでる。  
賢一も洗面所から外を覗き、ベランダで電話してる沼田を発見。  
スト ついでにあたしの携帯もお願い  
泥棒 無理だよ場所知らないし  
スト 場所はね…  
—————泥棒が扉閉める。沼田を確認し、玄関へ向かう  
泥棒 つきあってらんないよ…  
—————賢一も洗面所から出る。泥棒と賢一が遭遇  
泥棒賢一 !?  
泥棒 浮気相手…！  
賢一 あなたは…！？  
—————ベランダと目の前の賢一に挟まれた泥棒。謎の男に見つかった賢一。双方パニックのまま洗面所へ。  
賢一 いや、これは…その…申し訳ありませんでした！  
—————土下座する賢一  
泥棒 …！？  
賢一 あなたの家だというのは知っていましたがつい出来心で…！でも悪いのは全部僕です！優子さんを責めないであげてください！  
泥棒 !?…あ…おれ？あ、ああ、  
おれが、彼氏？ああそっかそっか、  
賢一 え…  
泥棒 彼氏…彼氏ね…彼氏だよ！おれはかの…ユウコの彼氏だよ！文句あるか！  
賢一 いやだから知ってます、文句はないです  
泥棒 ったく…人の女に手え出してくれやがってこの野郎…。  
スト ねえ、まだ？  
—————ストが押入から顔を出す。泥棒いない。ベランダに沼田。  
賢一 申し訳ありません。  
スト はあ…？どこ行ったのよ…  
—————ストが押入から口紅を見つける。

みんなのへや

泥棒 …で、おれは彼氏だから。  
賢一 はい…  
泥棒 タクヤ…だから  
賢一 はい…  
泥棒 それ以外の何者でもないから  
賢一 はい…？  
泥棒 さてと…  
賢一 …。

————— レシートにはかけないので枕に口紅で「ケンイチ」書く。

賢一 やっぱり…優子さん…呼びますか…  
泥棒 呼ばない！絶対呼ばない！  
賢一 え、でも  
泥棒 ユウコさんは絶対呼ばない！会いたくない！  
賢一 え、なんで…  
泥棒 なんでって…なんでもだ！お前と優子と三人で会うのは…ダメだ！  
賢一 はあ…  
泥棒 とにかく！もう優子とは会わないように！そして、もし会ったとしても、俺と会ったことは絶対に優子に話さないように  
賢一 はあ…  
泥棒 いいな！  
賢一 はい…

スト よし。

————— アラームが鳴る。ストが携帯を探す。ベッドの上とか下をしゃがんで。

泥棒 じゃあ、おれは行くから。  
賢一 え？  
泥棒 なんだよ。  
賢一 え、あなたが先にいくんですか…  
泥棒 文句あるのかよ！  
賢一 いや、てっきり僕が追い出されるのかと…  
泥棒 いいんだよ！

————— 沼田が電話終えてベランダから入ってくる。

沼田 じゃあ早く帰って来いよ。

————— ストはそのままベッドの下へ隠れる。沼田がストの携帯見つける。

泥棒 今日のところは見逃してやるから！おれも今出かけるところだから、お前もここから出るように！

————— 携帯のアラームをきる沼田。

沼田 うわ、あの女の…

スト え…

泥棒 くれぐれも…ベランダにいる俺の友人に見つからないように！

沼田 待ちうけ拓也だらけじゃねーか

スト ！！

泥棒 見つかるとややこしくなるから！絶対に見つらないように！

沼田 寝顔とかあるし…！

泥棒 万が一見つかっても、俺と会ったことは内緒にするように！

沼田 裸とかまで…！

泥棒 いいな！

沼田 いいですねーそっちは見せびらかしたりできて！

————— 泥棒が様子を伺う。ストが泥棒に気づく。

————— 泥棒がこっそり玄関に向かう。ストが呼び止める。泥棒が断る。沼田は枕の異変に気づく。

沼田 は…！？え、は、誰…！？

————— 泥棒が急いで出て行こうとする。ストが口紅投げ捨てて物音を立てる。

泥棒沼田 ！！

—————泥棒が振り向いた沼田に見つかる

泥棒沼田　！

沼田　え、誰…

泥棒　えっと…

沼田　なんでこの部屋に…

泥棒　…大家です。

沼田　え、

泥棒　いや、何回か呼び鈴鳴らしたんですけど壊れてるのか鳴らなかったみたいで。鍵も開いてたし…あ、ちょっと洗面所と風呂場の水漏れ？の確認で、その

沼田　…大家さん？

泥棒　大家さん。

沼田　はあ…そうですか…（怪訝）

泥棒　ちょっと緊急だったもので…特に異常がなかったんで失礼します、拓也さんによろしくお伝えくださいハハハ

—————出て行こうとする泥棒。そこにチャイムが鳴る

泥棒　！？

沼田　…

泥棒　…

沼田　え、呼び鈴…

泥棒　…直った一。

沼田　…出ないんですか？

泥棒　…出るんですか

沼田　…？

—————沼田が鍵を開ける。

大家　あ、ごめんなさいね、篠崎君のお部屋よね？

沼田　あ、はい、まあそうですけど

大家　どうも、大家です。

泥棒　！

沼田　？

大家　篠崎君いる？

沼田　いや出かけてますけど…大家さん？

大家　ええ。

沼田　大家さん？（泥棒に大家のこと聞く）

泥棒　（口笛）

大家　え、どうしたの？

沼田　大家さん？（大家に泥棒のこと聞く）

大家　ええ、私はね？この人は知らないけど…

沼田　あれ？これはどういう…

泥棒　いや、これは違うんです、その

沼田　ご主人？（大家に泥棒のこと聞く）

大家　いえ。主人は他界してます。え、お友達じゃないの？

沼田　いいえ。今この方「大家」って

泥棒　いや、あのこれは違うんです

沼田　…え、誰ですかアンタ？

泥棒　だっあの

沼田　なんで大家さん騙ったんですか？

泥棒　いやその大家…

沼田　なんでいるんですか…？

大家　え…泥

泥棒　「オオヤ ケンイチ」です！彼女、優子さんにはお世話になっております！

沼田　！？

泥棒　優子さんと親しくお付き合いさせていただいているものです！

大家　え…？ああ…

沼田 …え「ケンイチ」？  
泥棒 はい…！  
沼田 …枕の！  
泥棒 枕？  
大家 彼女と？付き合ってる人？ん？  
泥棒 ええ。  
大家 でもなんで篠崎君のところに…  
泥棒 ちょっとまあいろいろあって…  
大家 …！あ、どおりでさっき彼女さんこそこそと  
沼田 あの女がこいつを…！  
泥棒 いやあ、バレてしまっはしょうがありません。  
大家 一瞬泥棒かなんかかと思ったわよ  
泥棒 何言ってるんですか。  
———大家・泥棒笑う。  
沼田 いや、なんで偉そうなんだよ！立場！  
泥棒 立場？いいですか？僕は、泥棒なんかじゃなく、彼女の浮気相手として、彼氏の家に居る。それだけのことです。どこにやましいところがありますか。  
沼田 やましいよ！アンタ自分の言ってることわかってんのか！  
泥棒 泥棒なんかには比べたら全然OKですよ  
沼田 OKじゃねえよ！それにこれ一種の泥棒みたいなもんだぞ？  
泥棒 …That's right.  
沼田 いや、おかしいよ！なにバレた途端テンションあがってるんだよ！  
———泥簿、笑ってごまかす。  
泥棒 ということで、失敬！  
———そのまま玄関から出て行こうとする泥棒。とめる沼田。  
沼田 いやいやいや！なに流れで帰ろうとしてんだよ！  
泥棒 え？  
沼田 ご丁寧に浮気を告白してお前…彼女ともども話があるんで。  
泥棒 いや、でも  
———最後のほうだけ耳をそばだてて外の様子を探っていた賢一が、洗面所から出てベランダ側へ。ドアが死角で玄関の人間から見られない。  
———靴だけ回収しようとする賢一。ベッドの下の荷物を回収しようとしたところで、下に引きずりこまれる。  
賢一 ！  
———賢一の口を封じるスト  
スト シーッ！静かに！落ち着いて！  
賢一 (もごもご)  
スト 外のやつらに気づかれるから！わかった？  
賢一 誰なんですかあなた！  
スト 落ち着いて。怪しいものじゃないの。  
賢一 いや怪しいですよ！いきなり引きずり込まれて！ちょっとしたモンスターかと思いましたよ！  
スト あなた、優子さんと付き合ってるでしょ  
賢一 え  
スト 付き合ってるでしょ？  
賢一 いやまあ付き合ってるとかそんなんじやっていうっか向こう彼氏さんいるしっつ—かここ彼氏さん家だし…っていうかあなたは誰なんですか！  
スト 私のことはいいの。付き合っても、好きなんでしょ？  
賢一 ええ？  
スト 好きなんでしょ？付き合いたいんでしょ！？  
賢一 …まあ。  
スト OK、ありがとう。その気持ち、応援する！  
賢一 …なんなんすかあなた！怖い怖い怖い…！

——逃げ出そうとする賢一。再度引きずり込むスト。

スト 私は、あなた方の恋が上手く行ってほしいの！というより、優子さんに、あなたと一緒に居てほしいの。

賢一 え、なんなんですか？優子さんの友達かなんかですか

スト はあ！？友達！そんなわけないでしょあんなビッチ！誰があんな女ビッチ！

賢一 ああ！

——ストの口をふさぐ賢一

賢一 すいませんすいません！落ち着いて

スト とにかく、あの女にはアナタとくっついてもらって、あのカップルは別れてもらわなきゃ困るの。

賢一 わかりましたけど…で、あなたは…？

スト え？

賢一 えじゃなくて。何者で、なんでこんなところにいるんですか…？

スト …大家だから。

賢一 え、大家さん？…がなんであのカップルを別れさせたいんですか？

スト なんてって…

賢一 …拓也さんのことが…好きだから？

スト え、あ…

賢一 あ、ホラ。そうでしょ！拓也さんのことが好きな大家さん、ってことですね！？

スト …そう。

賢一 やっぱり！『めぞん一刻』的な！？

スト うん…なんでもいいけど

賢一 あるんだなあこんなことって！すいません、『響子さん』って呼んでいいですか？

スト あともう一つ問題があって。彼氏のタクヤと、さっきからそこにいる男、沼田

賢一 あ、友達ですか？

スト うん。この二人は付き合ってる。

賢一 あ、はい。…え、はい？

スト 男女の仲…っていうか男同士だけど、デキてます。

賢一 え、デキてるって…そういう、同性…的な？

スト そう。

賢一 マジすか！？

スト うん

賢一 あの二人が…？（泥棒と沼田）

スト そうなの。私も信じられないけど。

賢一 優子さんはそれ…

スト もちろん知らない。だから、それを伝えれば…

賢一 …伝えれば？

スト 彼氏に幻滅するでしょ

賢一 そうなんですか？

スト そうなんだって！だから、アナタにはその証拠を押さえて彼女に見せて欲しいの。写真とかで。

賢一 え、僕ですか？いや、それはだって…僕もこんな立場だし…そんな人のことどうこうっていう…

スト 何言ってるの！あなたも浮気だけど、向こうも浮気してるのよ？なに後ろめたいことがあるのよ。

賢一 いや、まあ

スト 彼女を自分だけのものにしたくないの？

賢一 いやそれは

スト お互い遊びみたいなそういうことなの？

賢一 それは違います！

スト だったら、彼女が、お互い浮気してあつてるようなそんな恋愛してていいの？

賢一 良くない…ですねえ

スト でしょ？だったら早く別れさせちゃえばいいのよあんなカップル！

賢一 はい。…じゃああくまでこっそり隠し撮りします。

スト よろしく！

賢一 ここからですか？…写るかな…？

スト あ、隠し撮りするならベランダが良いよ

賢一 そうなんすか？

スト ベッドのすぐ近くなのにバレないから。

賢一 詳しいっすね…。

スト うん、じゃあ彼氏が帰ってきたらよろしく。

大家 じゃあ、篠崎君帰ってきたらよろしくねー。あ、これ渡しといて。

沼田 はい、なんすか？

大家 家賃の件で。よろしく。

沼田 はあ。

大家 あと彼女さんにも…ふふふ

泥棒 そうですねー

沼田 ではまたー

———大家はける。

賢一 あ、彼氏達戻ってきます。行きますね！

スト …え？

賢一 だから、来ちゃいますから、ほら。

スト いや、いやいや…え彼氏？

沼田 とりあえず、これがどういうことなのか、彼女さんに聞かないとだなあ。

泥棒 いやいやいや彼女に確認するのだけはちょっと…

———沼田と泥棒、部屋に戻る。

スト え、あれは彼氏じゃ…

———賢一、ベランダへ。

沼田 「彼女は悪くない」ってか。

泥棒 ま、いや、そうじゃないけど…

沼田 そうはいかないね。徹底的に問い詰めてやる。

———沼田が席を立つ。

沼田 逃げるなよ。

泥棒 逃げないよ。

沼田 …。

———沼田がトイレに行く。瞬間、逃げようとする泥棒。を見抜いていてすぐ振り返る沼田。

沼田 はあ。

泥棒 いや、これ、違うんです

———沼田がベッドの下を色々あさり、手錠を出す。

沼田 え

———泥棒に手錠をかける沼田。

泥棒 え、ちょっと！なんだよコレ！おい！何で持ってるんだよ！おい！逃げないから。何だよこれ！何に使ってるんだよ！

———再びトイレに行く沼田！

泥棒 勘弁してくれよ…

———スト、下段から出て

スト 何これ、どういうこと？

泥棒 なんか知らないけど見つかったんだよ。

スト え、「彼女」とかなんとかって…どういうことになってるの？

泥棒 とりあえずおれは彼女の浮気相手ってことになってる。

スト え、

泥棒　そして、ホンモノの浮気相手の前では「彼氏」ってことになっている。  
スト　え、拓也君？  
泥棒　そう  
スト　あんたが？  
泥棒　うん  
スト　なにやってるのよ！全然似てないじゃん拓也君こんなじゃないし  
泥棒　大きなお世話だよ！だってホントのこと言うわけにいかないし、それにあいつ  
ホンモノの彼氏の顔見たこと無かったし  
スト　いや、それより私、浮気相手に頼んじゃったんだけど  
泥棒　なにを  
スト　彼氏と友人の濡れ場の、隠し撮り  
泥棒　え？  
スト　拓也君とあの男がいちゃついでる証拠を押しえろって  
泥棒　…ということは…どういうことだ？  
スト　だから、あの浮気相手のには、彼氏…つまりアンタとあの男の濡れ場を期待し  
てるんだって  
泥棒　え、俺の！？あの男と？  
スト　そうだよ、  
泥棒　なんで？  
スト　だから、浮気相手（賢一）は彼氏とあの男の写真を撮って、彼女にバラしたい  
の  
泥棒　だって俺関係ないじゃん！  
スト　そんなの！自分のこと拓也とかいうから  
泥棒　え、ちょ、勘弁してくれよそんなこと！え…おヴェえええ  
スト　しょうがないじゃんあっち（賢一）にそう言っちゃったんだから  
泥棒　ふざけんなよ嫌だよ！  
スト　そんなこといったってもうカメラ準備してるから  
泥棒　いや、第一、おれとあの男の濡れ場なんて取ったって誰も得しないだろ！  
スト　…ええ？  
泥棒　いや、だから！そんなもの撮ったって彼女と拓也を引き裂くことにはならない  
だろ？それに、浮気相手にも、あんたにも、っていうか俺にもあの男にも、誰  
の得にもならないだろ？  
スト　…  
泥棒　だから浮気相手のヤツにもちゃんと説明して…  
スト　…なる。  
泥棒　え？  
スト　あの男とあんたの絡みを見たら、拓也君が幻滅してくれる！  
泥棒　はあ！？  
スト　そうだよ！あの男と拓也君も別れさせなきゃなんだから！そっちに使えるじゃ  
ん！  
泥棒　いや、使えるじゃんとか言われても！  
スト　ということでよろしく！  
泥棒　嫌だよ！  
スト　今さら嫌も何もないでしょ！自分で言ったんでしょ？「タクヤだ」って  
無理だって！それに！あの男にはなんて説明するんだよ。  
スト　そんなのは知らないよ！いきなり抱きつけば良いじゃん！  
泥棒　だって、これ（手錠）の男だぞ！危険すぎるって！  
スト　やってくれなきゃ正体バラす。浮気相手にも、あの男にも。  
泥棒　ふっざけんなよ！…じゃあこっちはあんたの正体バラすぞ？  
スト　いいよ？あたしなんにも悪いことしてないし。  
泥棒　ええ！？いや、自覚症状…つつ一かそしたらタクヤ君にもメツチャ引かれる  
ぞ？  
スト　タクヤ君、今いないし

泥棒 あの男が言うだろ  
スト その前に逃げるもん、こっちは手錠ないし。  
泥棒 はあ…！？でも…  
スト しょうがないじゃん！写真におさめるときだけでいいから！なににも最後までしろって言うてるわけじゃないんだから  
泥棒 当たり前だよ！信じらんねえこいつ  
———洗面所から沼田出てくる。  
スト ほら、来たよ！  
———スト、ベッドの下へ。  
泥棒 ええ！？…くっそ、一瞬だけだぞ！？  
———ベッドに座る沼田。決意を固め、飛び掛る泥棒。  
泥棒 ぬ～またん！  
沼田 はあ！？  
泥棒 まあまあまあ  
沼田 いやいやいや  
———ヤケクソで沼田に絡みだす泥棒  
沼田 何すんだよ！  
泥棒 こんな感じかあ～！？  
沼田 なにが！  
泥棒 これでいいかあ～！？  
沼田 よくないよ！  
泥棒 ちゃんと見えてるかあ～！？  
沼田 何の話だよ！やめろよ！  
泥棒 いつものことじゃないかあ～？  
沼田 やめ！ちょ、は、なんで知ってる…  
泥棒 まだかあ～？  
沼田 ホントやめろって  
泥棒 そろそろいいんじゃないか～？  
沼田 いいかげんにしろって…  
泥棒 もう限界だよ～  
沼田 ええい！  
———泥棒を押しつける沼田。  
沼田 男なら誰でも良いと思うな！  
泥棒 …はい  
沼田 このけだもの！  
泥棒 …すいません  
沼田 おかしいんじゃないか！  
泥棒 色々事情があったんです…！  
沼田 優子ちゃんもなんでこんなヤツと…ったく…  
泥棒 …あの  
沼田 なんだよ！  
泥棒 トイレ行ってきても…？  
沼田 …  
泥棒 いや、これを（手錠）  
沼田 襲うなよ？  
泥棒 襲いません。  
———沼田が手錠を外す。  
沼田 逃げるなよ。  
泥棒 逃げません。  
———沼田に監視されながら泥棒がトイレへ。  
■ 優子が帰ってくる。  
———泥棒はトイレの格子を外して逃げようと必死  
沼田 あー、優子ちゃん、ちょうど良かった

優子 え、あ、うん、拓也は？  
沼田 いや、ただけど  
優子 そっか。  
——賢一を探してきよろきよろ。泥棒はトイレを諦め、風呂の窓から逃げようとする。

沼田 それよりちょっと話が  
優子 ごめんちょっと待って！  
沼田 大事な話なんだ  
優子 1分待って！  
——優子がトイレへ。誰もいない。風呂場で泥棒と遭遇。

優子 え！？  
泥棒 うわ！  
優子 え、っと…  
泥棒 あの…（候補を考えて）  
優子 誰ですか  
泥棒 大家です。ここの建物の。  
優子 …大家さん女性って聞いてますけど  
泥棒 大家の夫です。  
優子 ああ、旦那さん。  
泥棒 ええ、だから、男ですけど、大家です。  
優子 はは…そうですよね、そりゃご主人もいらっしゃいますよね  
泥棒 そうですよ  
優子 ごめんなさい、ちょっと慌てて  
泥棒 あ、こちらこそこんな格好で失礼しました、お邪魔しています。  
優子 はあ。  
泥棒 ちょっとこの水漏れとか何とかがいろいろあって色々で。何もなかったんですぐお暇しますね。

優子 はあ。お疲れ様です…  
賢一 大家さん、写真これでいいですか！？  
スト OK  
——泥棒が風呂場・洗面所を出ると沼田が立っている。

泥棒 …なんでしょう  
沼田 話ってのはこういうことだよ、優子ちゃん。  
優子 こういう…？  
沼田 ちょっと来てもらおうか。  
泥棒 …。  
沼田 来い！  
——沼田が泥棒を掴んで引っ張っていく。賢一は布団に包まる。

優子 ちょっと、沼田君！  
沼田 来るんだ！  
——沼田が泥棒を引っ張っていく。

優子 なにしてんの、ちょっと  
沼田 …（なるほどね）  
——

沼田 さて、これはどういうことだか、説明してもらえるかな？  
優子 え、どういふこともなにも…  
沼田 この人は誰ですか？  
優子 え？…大家さん？でしょ？  
泥棒 オオヤです。  
優子 だ、そうです。  
沼田 名前を聞いてるんじゃないくて！どういふ関係の人かと聞いているんだよ！  
優子 え関係？  
沼田 そうだ！

優子 え、大家さんと、ここ借りてる拓也の彼女。  
沼田 大家さんと 拓也の 彼女…大家さんと拓也の、彼女！大家さんと拓也の彼女  
なんだな！？

優子 え、だからそうだって、どうしたの？  
沼田 随分と良いご身分なこと！  
優子 なにが？  
沼田 つまり、この男、「オオヤ」ってのはようするに浮…  
泥棒 夫です！  
沼田 え…え、え！？  
泥棒 オオヤ。夫です。  
沼田 え、夫…！？  
泥棒 ?オオヤの、夫です。よね？  
優子 みたいです。  
賢一 大家さんの、夫！？（ストと泥棒を見比べる）  
沼田 夫って、え、結婚してるの！？付き合ってるとかじゃなくて！？  
優子 ま、夫ってことは…そうなんじゃないの？  
沼田 え、いや、待っ、え、ちょ話が違う…え、待って！結婚してるのになんで…  
じゃあ、  
優子 え？  
沼田 なんであんたは拓也と付き合ってるんだよ！  
優子 え、あたし！？  
沼田 そうだよ！なんでだよ！  
優子 え、なんであたしと拓也の…  
沼田 だったらなんでアンタは拓也とつきあってるんだよ！おかしいだろ！どういう  
ことなんだよ！  
優子 え？いや、え、好きだから…？  
沼田 はあ！？好きだからって許されると思ってんのか！  
優子 え、なんで！？いや、この人が結婚してるからって、なんでダメなのよ！  
沼田 …！なんでそこまで開き直れるんだ…どういう神経してんだよ！  
優子 なんでって…だって関係ないんだもん  
沼田 ビッチ…！

——— 理解の範疇をこえ、逃げ出す沼田。  
優子 ええ！？なんで？はあ「ビッチ」！？  
■ 沼田が出て行く。  
優子 どういうこと？  
泥棒 どういうことなんでしょう…  
賢一 旦那さんだったんですか！？  
スト …まあ。  
優子 え、だって大家さんのご夫婦の、御主人なんですよ？  
泥棒 ええ、そうなりますね。  
賢一 すいません僕てっきり…え、じゃあコレ（写メ）とか、アレ（優子）とか…  
いいんですか？  
スト いいのよ…  
優子 何であの人あんなに怒ってたの？  
泥棒 さあ、今のは忘れて下さい…  
——— 賢一が押入から出て行く  
賢一 ちょっと待て！忘れるわけにはいかないだろ  
優子 あ！賢一君！どうしてた？大丈夫だった？  
賢一 そんなことより、今の話、ホントなんですか  
優子 え、今の話って言うと  
賢一 この人が、オオヤさんの夫だってことですよ！  
優子 だからそうなんでしょ？  
泥棒 （頷く）

優子 なんなの？  
賢一 この人はどうなるんですか！  
——— ストを出す  
優子 誰…？  
賢一 大家さんですよ！  
優子 どうも。  
賢一 奥さんですよ。  
スト …。はい。  
泥棒 ！  
優子 え、なんでこんなところに…  
賢一 今はそんなことは問題じゃないんですよ！それより優子さん、よく考えてくれ。  
この二人は結婚しているんだぞ？  
優子 だから知ってるってそれがなんなの？  
賢一 それだけじゃない！そのうえこの男は、男同士だけどさっきの沼田ってヤツともデキている！  
優子 え！？あ、…え！？ホントに！？  
賢一 これがその証拠だ！  
泥棒 え、あ、いや…  
——— 携帯の写メ見せる。  
泥棒 …。  
優子 そう…なんですね  
泥棒 色々…事情があったんだ  
優子 なんか、大変なんですね…  
賢一 アンタに対して言いたいことは山ほどあるけど、今はそれは一旦置いておく。  
だが、優子さん、コレでわかったら？  
優子 なにが…  
賢一 この男は、そういう奴なんだよ！  
優子 はあ  
賢一 妻もいるし、その上で男と浮気をするようなやつなんだ！そういう男なんだよ！わかってくれ！  
優子 え、  
賢一 まだそんな…。拓也さんと別れてくれ！  
優子 …はあ！？え、関係なくない？  
賢一 おい…！  
優子 この人がどういう人だろうと、なんでそれがあたし達に関係してくるのよ！  
賢一 あなた方は幸せになんてなれない！  
優子 え、なにそれ！なんでそんなこと言われなきゃならないの！？  
賢一 僕は、あなたのことを真剣に好きだからだよ！  
優子 だからそういう問題じゃなくて…！この人が誰と付き合っとうと、私には関係ないじゃん！  
賢一 …！優子さん、ごめん！  
——— 賢一が優子に平手打ち  
優子 痛っ！なにするのよ！  
賢一 目を覚ましてくれ！  
優子 なにからよ！  
賢一 なんでわからないんだ…！じゃあもう僕を殴れ！そのかわ  
——— 早速平手打ちする優子  
賢一 早い！まあいいけど！とにかくこれで気は済んだらう！拓也さんと別れてくれ！  
優子 なんでそっちに話が行くの！たしかに今日は賢一君のこと誘ったけど、拓也と別れるとかそういう話じゃないんだって！  
賢一 ああもう！しょうがないハッキリさせよう！旦那さん！  
泥棒 あ、はい

賢一 あなたは結局のところ誰を取るんだ！この場で言いなさい！  
泥棒 え僕ですか  
賢一 奥さんと、あの男と、優子さんと！  
優子 え、あたし！？  
賢一 誰を選ぶんだ！  
優子 なんであたしが入ってるのよ！  
泥棒 それは…（どうしよう）  
スト （知らない）  
泥棒 …この人！  
賢一 奥さんなんだな？  
泥棒 そうだ  
賢一 優子さんではなく？  
優子 当たり前じゃない。  
賢一 じゃあ答えは見えてる！優子さん、拓也さんのことは諦めなさい！  
優子 …だからなんでそうなるのよ！  
賢一 片想いかあ…！  
優子 片想いじゃないって！…一応！  
賢一 大体そんなおと…拓也さんのどこがいいんだ！答えなさい！  
優子 何言い出すのいきなり  
賢一 そうまで諦められないんなら言えるはずでしょう！？  
優子 いやだって賢一君に拓也のこと言うとか…  
賢一 どこですか！それとも答えられないんですか！？  
優子 …！どこって…全部！  
賢一 全部！？  
————— 泥棒を凝視する賢一。慌てて格好つける泥棒。  
優子 優しいとことか…男らしいとことか…背え高いとことか…  
————— 優子の言葉に合わせてアピールする泥棒。最後背伸び。賢一引いてる。  
優子 っつーか、なんで賢一君にこんなこと言わなきゃいけないの？  
賢一 全く想像できない…！  
優子 見ればわかるよ…！  
賢一 見てもわかんないよ！  
■ 拓也が帰ってくる。  
拓也 沼田？ただいまー！  
優ス泥 ！！  
優子 ああもうこんなときに…！隠れて！  
賢一 え？なにが？  
優子 いいから隠れて！  
賢一 なんで！  
————— 賢一を押入に押し込んで  
優子 拓也が帰ってきたから！  
賢一 …ええ？  
優子 見つかったらでしょ！  
賢一 え、だってさっきからいたじゃないか！  
優子 はあ！？  
賢一 ずっと喋ってたじゃないか！  
優子 何言ってんの！いいから隠れて！早く！早く！  
————— 優子が押入の扉を閉めようとする。そこに入ろうとする泥棒とスト。  
優子 いやなんであなた達も隠れるの！  
泥棒 いや、ちょマジで！  
優子 だって必要ないでしょ！  
泥棒 いいから！  
————— 押入に隠れるストと泥棒。部屋の真ん中に来る拓也。  
拓也 あれ？優子…

優子 あら…  
拓也 え、病院は…？  
優子 あの…休みだったから。帰ってきた。  
拓也 …あそう。  
優子 うん。  
拓也 え、で…  
優子 だから家で休んでようと思って。  
拓也 いやでも…え、沼田は？  
優子 さあ？  
拓也 「さあ」って…ここ残ってたはずじゃないの？  
優子 なんかさっきどっか行った。  
拓也 え、沼田になんか言われた？なんか聞いた？  
優子 なんかよくわかんないこと言われた。  
拓也 よくわかんないことって？よくわからない世界のこと？っていうか俺のこと？  
優子 うん  
拓也 え俺のこと！？俺と…  
優子 あたしのこと  
拓也 優子との？  
優子 え、なんかあんの？  
拓也 いやなんもないけど  
優子 とりあえず探しに言ってきた方がいいんじゃない？  
拓也 いや、まず電話してみる（携帯出して）  
優子 ～～！あの…でもさ、あの…  
————— 優子が拓也を追い出す材料探して大家のメモを見つけ  
優子 あ、拓也。  
拓也 （電話かけてる）  
優子 ねえ拓也！大家さんから呼ばれてるよ！  
拓也 ん？（メモ見て）  
賢一 （泥棒に）呼ばれてるみたいですよ  
泥棒 …。（ストに）呼んだ？  
スト ううん。  
泥棒 呼んでないって。  
賢一 （顔出して優子に）呼んでないって！  
優子 ！  
————— 足でドアごと蹴って賢一を引っ込ませる優子。  
拓也 あ。やべ、これ家賃の件だわ。  
優子 あら！じゃあ早く払ってきなよ！いってらっしゃーい！  
拓也 うん  
————— 拓也が部屋を探し。  
優子 …拓也  
拓也 ん？  
優子 行かないの？  
拓也 うん、あれ…？  
賢一 え、「タクヤ」…  
————— 泥棒の顔と見比べる賢一。いろいろなところを探し回る拓也。  
優子 なに？なんかあったの？行かないの？  
————— 押入を背にする優子  
拓也 いや、家賃。  
優子 はあ。行かないの？  
拓也 ここに置いといた家賃しらない？  
優子 わかんないけど…行かないの…？  
スト 家賃…。  
泥棒 …。

拓也 あれ？どこいったんだ…？  
 キッチンの方や玄関を調べに行く拓也。賢一が顔を出し

賢一 どういうこと？  
 優子 ちょっと！出てこないで。  
 賢一 え、拓也さんってさ…  
 優子 いいから！  
 優子が押入を閉める。

賢一 …。  
 拓也 （封筒の特徴）な封筒の中なんだけど、しらない？  
 優子 さあ？  
 賢一 …ちょっと待て、一つわかったぞ？  
 スト …なに？  
 賢一 優子さんの交際相手の「拓也」ってのは、今外にいる男なんじゃないか…？  
 泥棒 …。  
 スト …。  
 賢一 いや、そうだよな確実に？コレでやっと辻褄があった。あなたは、タクヤさんじゃない！  
 泥棒 …ええ、まあ。  
 賢一 拓也ってのは…この今外にいる人だったんですよ！  
 泥棒 そうみたい…。  
 賢一 ということは。ここはただの大家さん夫妻で、あなたと優子さんは交際もしていない！  
 泥棒 ああ。  
 賢一 あ、なんだ…あ、そういうことだったのかあ…（一人ごちて）  
 賢一 …じゃあなんであんたらここにいるんですか！  
 泥棒スト …  
 泥棒 それは非常に難しい質問でね、  
 賢一 はい  
 泥棒 もはや私もなんと答えるべきかわからなくなっている…！  
 賢一 なんすかそれ。ま、とりあえず、ここが大家さん夫妻で、あっちが優子さんとその彼氏「拓也」で、あなたと彼氏の友人が肉体関係にあるってことではないんですね？  
 泥棒 いや、ちょちょちょっと！最後の！それも結局誤解…  
 スト バラすよ？  
 泥棒 え  
 賢一 ごかい…？  
 泥棒 …！五回しかやってないよ  
 賢一 五回もやってんじゃないかよ！まあいいけど！

拓也 いや、やっぱこちら辺だわ。  
 賢一 だとすれば僕は優子さんにはとんでもないことを…！  
 スト シーッ！

拓也 この中とかにしまったかもしれないんだけど。  
 優子 そんな訳無いじゃない  
 拓也 「無いじゃない」じゃなくて。入れたかもしんないだろ？  
 優子 絶対無い！  
 拓也 なんてお前が言い切るんだよ。  
 拓也が上の段開ける。

優子 ほら、ないじゃん。  
 拓也 あれ？  
 拓也が下の段開けようとする。

優子 こっちはいつも何もいれてないじゃん！空けてある方じゃん。  
 拓也 あ、いやそうなんだけど  
 優子 こんなところに何かあるわけ無いでしょ！あ、そうだ！沼田君に聞いてみれ

ば？ずっとここにいたんでしょ？

拓也 ああ

優子 じゃあ聞きに行こう！行ってらっしゃーい。

拓也 戻ってきたら聞くよ。

優子 ～～！

——拓也が下の段を開けようとする。

優子 トイレとかお風呂場とか探してみたら？

拓也 え？いや、無いだろそこには。

優子 大事なもの無くしたときって大抵トイレかお風呂場っていうじゃない？

拓也 いやわかんないその一般論。

優子 とりあえず行ってみよう。

拓也 いやでも

優子 見つけたくないの！？

拓也 はあ

——渋々洗面所へ向かう拓也。押入を開ける優子。

優子 賢一君！

賢一 優子さん！

優子 早く今のうちに

——出てきて押入の前で土下座して

賢一 本当にゴメン！僕が悪かった！僕ははっきり彼氏さんが妻帯者で、かつ男とも付き合っていて、優子さんとも付き合っていて、それなのに優子さんが彼氏さんのことを

優子 もうメンドクサイからいいから！早く逃げないと今のうちに！

スト 盗ったでしょ、拓也君の家賃。

泥棒 は、はあ？そんなわけないし

スト いや、それはいいの。

泥棒 ええ？

スト 拓也君とあの沼田を別れさせるヤツね、考えたんだけど、これでいいんじゃないかなって

泥棒 えっと…

——以後、賢一は頭を下げっぱなし。優子が「もういいから」と言っても聞かない。

スト だってお金が無くなって、その前まで部屋に一人で残ってたのって、あの沼田ってヤツなわけじゃない？拓也くんからすれば。

泥棒 ま、実際あと3人ほどいたけどね。

スト だから、沼田が盗ったことにすればいいんじゃない？

泥棒 …ああ！

スト でしょ？これならあたしにとってもいいし、あんたにとっても、こう…罪を被せられて、一石二鳥じゃん！

泥棒 それは…そうかもしれない！

スト ね！沼田がいない今がチャンスだよ！

泥棒 …うん！

スト よし決まり！じゃあその旨を拓也君に…

泥棒 え、俺が！？

スト優子 早く！

優子 いい加減にしてよ！反省してる場合じゃないから！逃げるなら今しかないから！

賢一 しかもとんだ勘違いで女性に手を挙げてしまって…！

優子 いいから！それより早く逃げろって！

——拓也洗面所開けて。

拓也 やっぱ無いだろ、普通に考えてこっちには。

優子 ああもう！

——賢一を押入に押し込む。拓也が来る。そのときに出てくる泥棒。

優子 え！？ちょっと

拓也 え、誰ですか！？  
泥棒 大家です！  
拓也 え、なんで（そんなところに）  
泥棒 単刀直入に言います。家賃を盗ったのは沼田君でしょう。  
拓也 は！？いきなり何言い出すんですか！  
優子 大家さん？  
拓也 …単刀直入すぎでしょう！  
泥棒 普通に考えればわかります。優子さん、あなたが帰ってきたときにいたのはだれですか？  
優子 え？沼田君と大家さん。  
泥棒 ですよ？僕が来たときも沼田さんだけがいました。そしてあなた方二人が出て行くときに残していったのは？  
拓也 …沼田？  
泥棒 でしょう？この部屋で一人だけの時間があったのは沼田さんだけなんです！  
賢一 大家さん。旦那さん、なんで自分の男のこと売ってるんですか？  
スト さあ？  
拓也 そんな。沼田が泥棒なわけじゃないじゃないですか～  
泥棒 でも一人だけ部屋に残ってて  
拓也 ありえませんか、あいつに限って～  
泥棒 いや、そうかもしれないんだけど  
拓也 あいつが俺のものを盗むとか、それだけは絶対に無いです。  
——— 悔しがるスト。不思議そうな賢一。  
優子 ずいぶん信頼してるのね  
拓也 俺と沼田の仲だぞ？  
スト ～！  
優子 あ、いや私も疑ってるわけじゃないけど  
拓也 何年来の付き合いだと思ってるんだよ。  
スト ～！！  
拓也 一番の理解者っていうか、おれが一番沼田のことわかってるし…優子には悪いけど、俺のことも沼田が一番わかってるだろうし  
スト …負けない！  
賢一 ？  
拓也 ふかーいところで繋がってるんだよ。  
スト いやらしい！  
賢一 なにが？  
拓也 とにかく、あいつがおれに黙ってなんかしたり嘘ついたりするなんてのは、ありえません！  
泥棒 そう…ですか…  
スト 果たしてそうかな…！  
賢一 どうしました？  
スト 賢一君！さっきの写真！  
賢一 …沼田と旦那さんの？  
スト そう！あれを持って彼氏に見せてきて！  
賢一 …え、なんでですか？  
スト 拓也と沼田を別れさせるためよ！  
賢一 …そこも付き合ってるんですか！？  
スト ええ。彼氏は、優子さんと付き合いながら、沼田とも付き合ってるの。  
賢一 ！！…ってことは…やっぱり優子さんは浮気されてるんですね？  
スト そう！  
賢一 ということは、写真を彼氏に見せると、彼氏は沼田に幻滅して…？  
拓也 っていうか、なんで…？  
賢一 あれ？優子さんと…？ん？なんかもう訳がわからなくなってきました…  
拓也 なんでそんなところに…？

スト つまり優子さんはあなたと拓也、拓也は優子さんと沼田、沼田は拓也と泥…  
 うちの人、うち的人是あたしと沼田と付き合っているってことね！

賢一 爛れまくっている…！

スト 一途なのはあたしとあなただけよ！

賢一 この世は闇だ…！

スト 正義を示してきて頂戴！

賢一 はい！

拓也 いやだっておかしいですよね！？

賢一 …え、これを見せると結果的にどういうことになるんですか？優子さんは彼氏と別れてくれるんですか

スト 正義を示してきて頂戴！

賢一 わかりました！

————賢一が出て行く。身を縮め、すぐ戸を閉めるスト。

賢一 ちょっとまった！

拓也 今度は誰なんだ！

優子 ちょっと！なに…

賢一 沼田はお前に隠し事をしている！これがその証拠だ！

————沼田と泥棒の写真を見せる賢一。

拓也 だからいきなり何言い出すんだよ！

賢一 優子さん、もう終わりにしよう！こんな爛れたかんげ

優子 んー？えー？なに？誰ですかこの人ー？えー？誰か知らない人がいるー！出て行ってくださーい！

————賢一を玄関まで追い出そうとする優子。悔しがるストーカー。

賢一 何言ってるんですか優子さん！ここでアイツらのことも僕等のことも

優子 え、何言ってるのー？あなた誰ー？

■ 沼田来る。

沼田 優子さん！やっぱりさっきの話なんだけど

優子 ！！

————優子が賢一を連れて洗面所・トイレに避難。

沼田 あれ優子さん…つつーか拓也！

拓也 え、なにどういうこと！？さっきの人は誰？

泥棒 さあ誰なんでしょう…？

拓也 なんで押入から出てきたの！？

泥棒 僕にもさっぱり…

賢一 なにするんですか！

優子 こっちの台詞よ！何出て来てんの？

拓也 一緒に入ってたんでしょ？

泥棒 ずっと不思議だったんですよ。

沼田 拓也なにそいつと普通に話してるんだよ！そいつは優子さんだけじゃなく俺にまで…

泥棒 あ、いや…

拓也 は？

沼田 そいつは優子さんの夫とかぬかしてる変態だよ

拓也 優子の？夫！？

沼田 …そうなんだろ？

泥棒 あれは売り言葉に買い言葉というか…夫ではないです。

沼田 でも付き合ってるんだろ？

拓也 どういうことだよ

沼田 優子ちゃんは浮気してるんだよ。こいつと。

拓也 はあ！？ふざけんなよあんた！

泥棒 でもこう言っちゃあれですけど、そっちだって浮気してるじゃないですか、沼田さんと！

拓也 ！？

賢一 優子さん、もう全部明らかにしよう！  
優子 何言ってるの！？  
賢一 もうこんなお互い隠し事してるようなのはダメだよ！  
優子 ちょっとそんな勝手なこと言わないでよ！  
賢一 優子さん、今日ここに僕を呼んだのはどうして？  
優子 ええ？なんで今その話…  
賢一 なんでわざわざ彼氏の家を呼んだの？  
優子 …。  
拓也 …なんで知ってるんだよ…  
泥棒 …ちょっと色々と。  
拓也 優子には言ったか…？  
泥棒 いえいえ、勿論何も言っていません  
拓也 …  
賢一 もしかして、バレたい気持ちがあったんじゃないか？  
優子 そんなことないけど…  
拓也 このことは聞かなかったことにするから、絶対優子には言うなよ。  
泥棒 わかりました  
拓也 そして今後一切会うなよ！  
泥棒 はい！  
賢一 気づかれない・気にされたい気持ちが心の何処かにあったんじゃないか…？  
優子 …。  
拓也 じゃあ、あんたは、それだからこの中に入っていたんだな？  
泥棒 そうです！  
優子 寂しかったの…。  
拓也 家賃はとってないんだな？  
泥棒 勿論！  
賢一 …確かに、あれじゃそう思うのも無理はないよ  
沼田 家賃で？  
拓也 誰かに盗られたんだよこの1時間くらいの間に！  
賢一 でも、優子さん。これだけはハッキリ言える。  
拓也 俺でも沼田でもこの男でもないヤツに！  
沼田 まさか優子ちゃん…！？  
賢一 でもあなたのことを幸せに出来るのは、彼じゃない。  
拓也 いや、優子じゃないだろ。  
賢一 拓也さんじゃない！  
泥棒 …あの男じゃないですか！？  
賢一 僕だ！  
拓也 あいつ！？ 優子 賢一君？  
賢一 そうだ！  
泥棒 だって一番素性が知れないですし、なんで隠れてたんですか？  
賢一 最初は浮気相手でも嬉しかった。  
泥棒 僕は浮気相手だからじゃないですか  
賢一 でもそんな関係じゃダメだよ！  
泥棒 彼はなんですか！？  
賢一 僕こそが真のパートナーだ！  
泥棒 …泥棒なんですよ。  
賢一 もちろん一番大事なのは優子さんの気持ちだ。  
泥棒 それ以外に隠れる理由なんてないじゃないですか！  
賢一 でも、僕としては、彼氏さんから奪いとる覚悟はあるから！  
泥棒 あいつが盗ったんですよ！  
賢一 略奪や泥棒といわれても構わない！  
泥棒 あいつこそ泥棒だったんですよ！  
拓也 …そうだったのか！

賢一 僕は優子さんだけいけばいい！  
泥棒 金目当てで潜んでたんですよ！  
沼田 確かに！  
賢一 もうコソコソするのはやめよう！  
沼田 留守番してるとき、誰かいた気配が…  
泥棒 でしょ！？  
賢一 でも今のままじゃダメだ！  
拓也 なるほど…！  
賢一 だから優子さん、全部明らかにしよう！  
泥棒 もう明らかですよ！  
賢一 行こう。  
拓也 あいつか…！  
———洗面所から出てくる。  
拓也 おい、ちょっと話がある。  
賢一 こちらも、皆さんに話したいことがあります。  
拓也 泥棒さん。  
賢一 …（ため息）。  
拓也 あんたのことだよ。  
賢一 泥棒・略奪…なんとでも言って下さい。覚悟は出来てます。  
拓也 …え、開き直り？  
賢一 ただ、僕にも言いたいことがある。  
拓也 ？  
賢一 あなたには渡せない…！  
拓也 …はあ！？  
賢一 特にあなたのしていることを知った今は、絶対に！  
拓也 いやいやいや…いい加減にしろよ！  
賢一 殴るなら殴れ！  
拓也 殴んねえよ！…警察呼ぶよ。  
賢一 警察は関係ないだろ！  
拓也 明らかに警察沙汰だろ！  
賢一 警察に言うことじゃないだろ、これは、彼女が決めることだろ！  
拓也 なんで優子さんだよ！  
賢一 この場合、優子さんの気持ちが一番大事だろ？  
拓也 …俺の気持ちはどうすんだよ！  
賢一 俺の気持ちって…散々放置しておいてそんな…。そもそもあんたが放っておいたのが悪いんだろ！  
拓也 え？放っというてねえよ！お前が勝手に入ってきて盗んだんだろ！  
賢一 （ため息）どうだか？  
拓也 そうだよ！  
賢一 （優子に）大丈夫です。  
拓也 おい…もういいから返せ。  
賢一 は…？  
拓也 とりあえず、埒明かないから、出せ。盗ったヤツよこせ。  
賢一 優子さんはモノじゃない！  
拓也 え！？優子の話じゃねーよ！金を出せつつってんだよ！  
賢一 …！金で解決する気か！  
拓也 いやむしろ親切だろ！それで見逃してやるって言ってんだから。68,000円！  
賢一 安すぎる！！優子さんしっかりして！  
優子 ヒドすぎる…！  
拓也 ええー！？  
賢一 行きましよう優子さん、こんなクズ相手にすることは無い。  
———優子を連れて出て行こうとする。引き止める拓也。  
拓也 いやいやいや、なに流れで帰ろうとしてるんだよ！

賢一 そんなに金が欲しいのなら、あとでいくらでも払ってやる！だがな…  
拓也 いや今わたせ！っつーかなんで優子もそいつの肩もつんだよ！  
優子 もういい！  
拓也 ！？  
賢一 行こう…！  
拓也 よくねえーよ！  
沼田 そういうことか…  
拓也 ？  
沼田 この女も金が目当てだったんだよ！招き入れてたんだ！泥棒を！  
拓也 は！？  
賢一 何言ってんだ！  
沼田 お前は、騙されてたんだよ！  
拓也 ええ…！？なんか違う気がする…  
沼田 それはお前、情が残ってるからだよ！この女は、そういう奴だったんだよ！  
賢一 ちょっと待て！  
沼田 コイツを招き入れたのも、はじめから金目当てでお前と付き合っていたからなんだよ！  
優子 そんなんじゃない！  
沼田 じゃあなんでこいつを家に入れたんだ！  
優子 …寂しかったの！  
沼田 …懐が！？  
優子 違う！  
———沼田、ストの携帯出して  
沼田 さっきこの部屋でこんなものを拾ったんだが…コレを見れば…そいつとの金目当てのやり取りが残ってるんじゃないのか！？  
優子 …なにそれ？  
沼田 ん？  
優子 私のコレだし（携帯出して）  
沼田 え  
優子 なによその女物のケータイ！  
沼田 え、どういうことだ！？  
優子 どこの女のケータイよ！  
沼田 どういうこと！？他にも女がいたの！？  
彼氏 え、おれ！？知らない…覚えが…ない…  
優子 そんな訳無いでしょ！  
沼田 じゃあなんでこの部屋にあったんだ！  
彼氏 待て待て待て！マジで知らないんだって！ホントに！  
沼田 待ち受けが拓也だらけじゃないか！  
優子 誰のケータイよ！それ！  
拓也 知らない！マジで知らない！  
優子 どこの女よ！  
沼田 おれが本命じゃなかったのかよ！  
拓也 ちょ！お前！言うな！  
優子 は！？今のなに！？  
沼田 付き合ってるんだよ！  
拓也 バカー！  
優子 嘘でしょ沼田君と！？  
沼田 悪いかよ！そっちだってこいつと浮気してんだろ！  
優子 何言ってんの！この人じゃないし！  
沼田拓也 はあ！？  
優子 こっちだし！  
賢一 俺だよ！  
沼田 お前は泥棒だろ！

優子 そっちは大家さんの旦那さんでしょ！  
沼田 旦那さんは亡くなってるよ！  
優子 じゃあ誰なのよ！  
沼田 知らないよ！じゃあ幽霊だろ！ともかくアンタも浮気してるだろ！  
優子 でもちょっとした浮気だもん  
賢一 え！？  
沼田 でも拓也の本命は俺なんだよ！  
優子 じゃあこの女は誰なのよ！  
沼田 何人女がいるんだお前は！  
拓也 俺はそんな携帯知らないんだよ！  
■ スト来る。  
———このあたりからチャイムが鳴り出している。  
沼田 嘘をつくなー！  
優子 じゃあ誰のケータイよ！  
———スト出てきて  
スト あたしのよ！  
沼田 はあ！？  
拓也 誰だー！  
賢一 優子 大家さん！  
沼田 この人は大家さんじゃない！  
優子 え、でもさっき自分で  
沼田 どういう関係なんだ！  
拓也 知らない知らない！  
スト ばれちゃったわね、拓也。  
優子 どういうことよ！  
沼田 アンタは誰なんだ！  
スト 拓也のホンモノの彼女ですが、なにか？  
沼田 優子 はあ！？  
沼田 俺に隠れてこそこそと！やっぱり女が好きなんじゃないか！  
拓也 知らない知らない！こんなひと知らない！  
スト まあ、照れちゃって。  
拓也 いやいやいやいや！初対面！初対面だから！誰コレ！  
沼田 本命は俺なんじゃなかったの！？  
優子 あたしなんて一緒に住んでるのに！どういうことよ！  
拓也 マジで知らないんだってこんな女！  
スト 拓也！もう無理だよ！本当のこと言お！  
拓也 ふっざけんなよ！誰だよこいつは！  
優子 大家さんじゃなかったの！？  
大家 篠崎くーん  
スト ごめんねみんな！本命はあたしなの！  
拓也 やめろって！お前なんなんだよ！  
沼田 拓也の嘘つき！  
優子 私はどうなるのよ！  
沼田 あんたはこいつだろ！  
優子 こんな嘘だし！本命は拓也だもん！  
大家 篠崎くーん  
賢一 ちょっと待ったー！  
沼田 おれだって本命のはずなんだよ！  
スト 拓也がハッキリしないからだよ！何度も言ったじゃない！  
拓也 マジでふっざけんなよお前ー！  
賢一 優子さーん！  
拓也 ホントに！ホントに彼女じゃないし俺こんな女知らないんだって！始めて見るやつなんだって！

みんなのへや

沼田 嘘つけよ！  
大家 ちょっとお邪魔するわよ～  
拓也 うるさいよ！…あ、大家さん。  
大家 彼女さん。ベランダから靴落ちてたわよ、はい。  
——— 大家がストに靴渡す  
スト ありがとうございます。  
沼田 …やっぱり彼女じゃねーか！  
優子 説明しなさいよ！  
拓也 マジで知らないんだって！  
賢一 優子さーん！  
——— 拓也に抱きつくスト。揉める皆。ベランダから出て行く泥棒。  
幕

Aga-risk Entertainment 2010 all right reserved.  
無断複製・改変・上演を禁じます。